

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10(6)	運営推進会議に利用者やその家族にも参加してもらい、その意見、要望を運営に反映させようとしているが、なかなか意見が出てこない。	要望、要求だけでなく、施設の優れている点も聞くなどして、話しやすい、言いやすい雰囲気を作り、家族、利用者の意見を吸い上げる。	玄関に意見箱を設置し、直接言いにくい事はこれを利用するよう、家族、来所者へ周知徹底していく。	1ヶ月
2	11(7)	勤務シフトの関係で職員が一同に会する機会が少ないため、連絡帳をフルに活用しているが、文章の範囲でしか伝わらない。	顔をつきあわせ、リアルタイムで職員各自の意見、考えを生々の声で出し合う。	最低でも月に2回程度は職員会議をできるだけ全員参加で行い、生々の声を運営に反映させていく。	1ヶ月
3	26(10)	介護計画を見れば、その施設の真が判ると言われる中、プランに具体性が欠け、日常サービスとの脈絡がない。	職員全員で徹底的に話し合っってプランを立て直し、入居者一人ひとりに合ったより良いサービスを提供していく。	職員全員で介護計画を作り、それを実行、評価を繰り返しながら、利用者の想いや真の要望に応えていく。	2ヶ月
4	33(12)	重度化した場合や終末期は医療材関に委ねるという考え方が支配している。	家族の要望があれば看取りにも積極的に取り組んでいきたい。	車で7分程度の所に、親戚にあたる医療機関があり、そこと連携しながら、利用者、家族との意志の確認方法や職員の教育に取り組み、体制を構築していく。	6ヶ月
5	35(13)	火災に対しては年4回程度、消防署立ち合いのもと通報、消火、避難の訓練を実施し、力を入れているが、地震や風水害に対してはほとんど無防備である。	地震や風水害などの非常災害に対しても、利用者の安全を計る。	飲料水、非常食、オムツ、常備薬、懐中電灯等を備蓄し、利用者の個人情報(住所、氏名、年齢、顔写真、服薬表、かかりつけ医、健康保険証のコピー)の入ったプレートを作り、避難の場合はそれを首にかけさせる。	3ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。